

- 問1 日本で最も長い信濃川の下流域に広がり、その豊かな水と堆積した土砂によって形成された、日本有数の稲作地帯として知られる平野の名称を選びなさい。 (2018年 和歌山県公立入試 類似)
1. 石狩平野 2. 濃尾平野 3. 筑紫平野 4. 越後平野
- 問2 中部地方の自然環境と河川の特徴について述べた次の文のうち、正しいものはどれですか。なお、中部地方には長野県・山梨県・静岡県の3つの県境が山間部の一点で交わるような複雑な地形が見られます。 (2025年 京都府公立入試 類似)
1. 中部地方を流れる木曽川は、北上川と同様に東北地方の平野を形成している。 2. 長野県を流れる木曽川は、山梨県を通して日本海へ注いでいる。 3. 山岳地帯を源流とする木曽川は、愛知などを経て太平洋へ注いでいる。 4. 中部地方の山岳地帯から流れる木曽川は、静岡県を通過して富山湾へ注いでいる。
- 問3 日本の工業地帯・地域別の統計において、全国の工業生産額の約27.1%を占め、第1位となっている地域の特徴として最も適当なものはどれか。 (2015年 大分県公立入試 類似)
1. 石油化学コンビナートが沿岸部に形成され、化学工業の割合が高い瀬戸内工業地帯を中心としている。 2. 古くから繊維工業や金属工業が発展し、現在は中小の機械工場が密集する阪神工業地帯を含んでいる。 3. 自動車産業の強力な集積を背景に、輸送用機械の製造品出荷額が非常に多い中京工業地帯を含んでいる。 4. 印刷・出版業が集積し、東京都を中心とした巨大な消費地に隣接する京浜工業地帯を中心としている。
- 問4 川が山間部から平地に出る場所に、土砂が堆積して等高線が扇状に広がる地形が形成されることがあります。この地形における土地利用の記述として、地形の性質を踏まえた最も適切なものはどれですか。 (2024年 長野県公立入試 類似)
1. 標高が低く平坦なため、重化学工業の巨大な工場が立ち並ぶ工業地帯となった。 2. 土砂が細かく湿気が多いため、古くから大規模な水田地帯として利用されてきた。 3. 川の最下流部に位置するため、砂や泥が堆積してできた水はけの悪い低地となっている。 4. 砂や礫が積もり水はけが良いため、古くから果樹園や桑畑として利用されてきた。
- 問5 フォッサマグナが日本の自然環境において果たしている役割や特徴について、地質的な観点から述べた説明として正しいものを選択してください。 (2023年 岩手県公立入試 類似)
1. プレートの沈み込みによって形成された細長い海溝であり、現在も海底において活発な地殻変動が続いている。 2. 古生代の非常に古い岩盤が地表に露出した地域であり、日本列島の中で最も地盤が安定している場所である。 3. 季節風を遮る巨大な壁のような役割を果たしており、日本海側と太平洋側の気候を明確に分ける主因となっている。 4. 本州の地質構造を東西で分断する境界となっており、この地帯を境に地形や地層の成り立ちが大きく異なっている。
- 問6 飛騨山脈などの高い山々に囲まれた長野県や山梨県の盆地では、山沿いに広がる水はけのよい「扇状地」から大きな変化が見られました。その土地利用の変化の内容と理由として最も適切なものはどれですか。 (2023年 宮城県公立入試 類似)
1. 冷涼な気候を活かした畜産業を推進するため、砂礫を多く含む土地を広大な牧草地へと整備した 2. 養蚕業の衰退に伴い、地形の水はけのよさを活かしてリンゴやブドウなどの果樹園へと転換された 3. 近隣の都市部への出荷を目的として、傾斜地を切り開き、静岡県と同様の茶の栽培が拡大した 4. 海外からの安い農作物の流入に対抗するため、灌漑設備を整えて大規模な水田へと造り替えられた
- 問7 長野県では夏から秋にかけて、標高の高い地域の冷涼な気候を活かしたレタスなどの栽培が盛んです。収穫されたレタスを、鮮度を保ったまま東京などの大都市圏へ届けるために工夫されている流通の仕組みとして、最も適切な説明はどれですか。 (2022年 神奈川県公立入試 類似)
1. 二酸化炭素の排出を抑えるため、すべて鉄道コンテナを利用して翌々日に届ける仕組み 2. 冬まで雪の中で貯蔵し、市場の品不足に合わせて出荷時期を遅らせる仕組み 3. 収穫後すぐに乾燥加工を施し、常温のトラックで大量に輸送する仕組み 4. 保冷車を用い、収穫したその日のうちに都市部の市場へ届ける仕組み
- 問8 日本の茶の主産地では、4月上旬頃の気象条件に合わせて「防霜ファン」を稼働させることがあります。この設備が稼働する背景となる自然現象と、その仕組みについて説明した文として正しいものを選びなさい。 (2022年 群馬県公立入試 類似)
1. 春先に発生しやすい濃霧が日照を妨げるため、扇風機の風で霧を散らして茶の芽の成長を促進させる。 2. 夏場の強い日差しによる土壌の乾燥を防ぐため、風を送ることで地中の水分を効率よく吸い上げさせる。 3. 晴れた夜間に発生しやすい放射冷却によって地表付近の温度が下がるため、上空の暖かい空気を循環させて凍結を防ぐ。 4. 梅雨時期の高温多湿な環境で発生する病原菌を抑えるため、風を送り続けて茶の葉の表面を乾燥させる。
- 問9 中央高地の気候的特徴である「夏でも涼しく、冬の寒さが厳しい内陸部」という条件を活かした長野県などの農業の取り組みとして、適切なものはどれですか。 (2022年 福岡県公立入試 類似)
1. 冬の温暖な気候を活かして、他の地域よりも早く出荷する促成栽培が盛んに行われている。 2. 夏でも涼しい高原の気候を利用して、レタスやキャベツなどの野菜を夏から秋に出荷する抑制栽培が行われている。 3. 冬の積雪を水源として利用し、広大な平野で大規模な稲作が行われている。 4. 年間を通じて降水量が少なく日照時間が長いので、山の斜面を利用してミカンなどの果樹栽培が行われている。
- 問10 長野県で見られる地形とその土地利用について、自然環境に適応した産業の仕組みを説明したものとして最も適切なものを選択してください。 (2021年 愛知県公立入試 類似)
1. 火山灰が積もった広大な台地は水はけが悪いので、大規模な灌漑施設を整備することでサツマイモや茶の栽培を大規模に行っている。 2. 盆地の縁にある扇状地は水はけがよいので果樹栽培が行われ、標高の高い地域では夏の涼しい気候を活かした高原野菜の栽培が盛んである。 3. 海岸沿いに形成された平坦な干拓地は大型機械の導入に適しており、小麦やてん菜を育てる大規模な畑作農業が展開されている。 4. 河口付近に広がる三角州は水もちがよいので稲作が中心であり、冬の積雪期にはビニールハウスを用いた施設園芸農業が行われている。
- 問11 中部地方における農業の特徴に関する説明として最も適当なものを、次のうちから1つ選びなさい。 (2026年 熊本県公立入試 類似)
1. 長野県では平水域を生かしてのりや貝類の養殖が行われ、静岡県では冬の冷涼な気候を生かして茶の促成栽培が行われている。 2. 長野県では水はけのよい台地を生かして茶の栽培が行われ、静岡県では夏の冷涼な気候を生かしてトマトの抑制栽培が行われている。 3. 長野県では夏でも涼しい高原の気候を生かしてレタスなどの抑制栽培が行われ、静岡県では台地などの地形を生かして茶の栽培が行われている。 4. 長野県では冬の温暖な気候を生かしてトマトなどの促成栽培が行われ、静岡県では平野の水田を生かしてレタスの栽培が行われている。
- 問12 愛知県に位置し、東京（羽田・成田）や新千歳、那覇、福岡、鹿児島といった全国の主要都市と、年間旅客数が100万人を超える大規模な航空路線で結ばれている空港として正しいものを次の中から選びなさい。 (2022年 熊本県公立入試 類似)
1. 成田国際空港 2. 関西国際空港 3. 中部国際空港 4. 大阪国際空港

答え合わせ・解説

問1	答え 4 越後平野	信濃川が日本海に注ぐ河口付近には、広大な越後平野が広がっています。この平野はかつて地は低く水はけの悪い湿田が多かったのですが、干拓や土地改良、大河津分水路などの治水事業が進められた結果、現在では日本を代表する米の単作地帯となっています。
問2	答え 3 山岳地帯を源流とする木曽川は、愛知県などを経て太平洋へ注いでいる。	中部地方は「日本の屋根」と呼ばれる険しい山岳地帯が連なっており、それらの山々が分水嶺となって河川の流れる方向を左右しています。木曽川は長野県の山岳地帯から南西方向へ流れ、岐阜県と愛知県を抜けて太平洋側の伊勢湾に到達します。山梨県と静岡県との境界付近もこうした険しい山地の一部を構成しています。
問3	答え 3 自動車産業の強力な集積を背景に、輸送用機械の製造品出荷額が非常に多い中京工業地帯を含んでいる。	中部地方の太平洋側に位置する中京工業地帯は、愛知県の豊田市などを中心に世界的な自動車産業の集積地となっており、日本の工業生産額において長年第1位を維持しています。特に輸送用機械の占める割合が極めて高いことが、全体の生産額を押し上げる大きな要因となっています。
問4	答え 4 砂や礫が積もり水はけが良いため、古くから果樹園や桑畑として利用されてきた。	川が山地から平地へ出たところに形成される扇状地は、堆積した土砂の粒が大きく、水が地下に浸透しやすい「水はけが良い」という性質を持っています。そのため、水が必要な稲作（水田）にはあまり向かず、果樹園や養蚕のための桑畑として利用されてきました。選択肢にある「川の最下流部」にできる地形は三角州であり、扇状地とは形成場所や性質が異なります。
問5	答え 4 本州の地質構造を東西で分断する境界となっており、この地帯を境に地形や地層の成り立ちが大きく異なっている。	フォッサマグナは、日本列島の形成過程において重要な役割を果たした巨大な溝です。この地帯を境に、東側と西側では岩石の種類や地層の重なり方といった地質構造が劇的に変化します。まさに日本列島の「継ぎ目」のような場所であり、日本の地形の多様性を生む背景となっています。
問6	答え 2 養蚕業の衰退に伴い、地形の水はけのよさを活かしてリンゴやブドウなどの果樹園へと転換された	長野県などの中央高地にある盆地では、山地から流れる川が平地に出る場所に土砂が堆積して、扇を広げたような形の「扇状地」が形成されています。扇状地は砂礫（砂や小石）が多く、水が地下に染み込みやすいため水はけがよいのが特徴です。明治時代から昭和初期にかけては、この地形を利用して養蚕（カイコを育てること）のための桑畑が広がりましたが、戦後の化学繊維の普及などによって養蚕業が衰退したため、現在はその水はけのよさを活かしたリンゴやブドウなどの果樹栽培へと転換されています。
問7	答え 4 保冷車を用い、収穫したその日のうちに都市部の市場へ届ける仕組み	レタスは非常に鮮度が落ちやすい野菜であるため、長野県の生産地では保冷車（冷蔵トラック）が普及したことで、遠方の大都市圏へも品質を維持したまま届けることが可能になりました。特に高冷地の涼しい気候を利用して作られる「夏秋（かしゅう）野菜」は、消費地に近い平地での生産が困難な時期に出荷されるため、迅速な配送システムが重要な役割を果たしています。
問8	答え 3 晴れた夜間に発生しやすい放射冷却によって地表付近の温度が下がるため、上空の暖かい空気を循環させて凍結を防ぐ。	茶の産地において、春先の気温低下は「晩霜（ばんそう）被害」として恐れられています。特に雲のない晴れた夜間は放射冷却が強まり、地表付近の温度が氷点下近くまで下がる場合があります。このとき、地上6～8メートル付近には地表よりも数度高い温度の空気層（逆転層）ができるため、防霜ファンでその暖かい空気を地表に送り込むことで、デリケートな新芽が凍りつくのを防いでいます。
問9	答え 2 夏でも涼しい高原の気候を利用して、レタスやキャベツなどの野菜を夏から秋に出荷する抑制栽培が行われている。	中央高地の長野県や群馬県の高原地帯では、標高が高く夏でも涼しいという気候を活かし、他の地域では生産が難しい夏から秋にかけてレタス、キャベツ、ハクサイなどを栽培しています。これを「抑制栽培」と呼び、都市部の需要が高まる時期に出荷することで高い収益を上げています。冬の寒さが厳しく氷点下になる中央高地では、温暖な気候を利用する促成栽培やミカン栽培は適していません。
問10	答え 2 盆地の縁にある扇状地は水はけが良いため果樹栽培が行われ、標高の高い地域では夏の涼しい気候を活かした高原野菜の栽培が盛んである。	長野県では、山地から盆地へ流れる河川が作った「扇状地」が広く見られます。扇状地は砂礫でできているため非常に水はけが良く、稲作よりもリンゴやブドウなどの果樹栽培に適しています。また、標高の高い地域（高冷地）では、他の地域が猛暑となる夏でも涼しい気候を保てるため、レタスやキャベツなどの高原野菜を都市部の需要に合わせて出荷する抑制栽培が行われているのが特徴です。
問11	答え 3 長野県では夏でも涼しい高原の気候を生かしてレタスなどの抑制栽培が行われ、静岡県では台地などの地形を生かして茶の栽培が行われている。	長野県では高冷地の気候を利用したレタスなどの高原野菜の抑制栽培が盛んです。また、静岡県では牧ノ原などの水はけのよい台地を利用して茶の栽培が行われています。
問12	答え 3 中部国際空港	中部国際空港は愛知県常滑市の人工島に位置し、中部地方の空の玄関口として機能しています。この空港は東京（羽田・成田）だけでなく、北海道（新千歳）、九州（福岡・鹿児島）、沖縄（那覇）といった国内の各拠点都市との間に非常に需要の高い航空路線を持っており、日本の航空ネットワークにおける重要な拠点の一つとなっています。